



タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3508		
科目名	救援活動論		
担当教員	黒田 洋司		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック(CR)との関連 E1 学識と専門技能(70%) I1 理解・分析と読解(30%)		
教員の実務経験	1991年から消防防災に関する専門的な調査組織である消防防災科学センター（旧消防科学総合センター）の研究員として、主に防災のソフト面（防災計画、防災マニュアル、防災訓練、ボランティア、自主防災組織、消防団等）に関する調査研究を行ってきました。近年では、内閣府「防災スペシャリスト養成研修企画検討会」委員（平成25年度～令和2年度）、同研修人材育成コースコーディネーター、平成25年伊豆大島土砂災害第三者調査委員会委員（平成27年度）、総務省消防庁「自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会」委員（平成30年度～令和元年度）なども務めています。わが国のソフト面の防災対策は、1995年に起きた阪神・淡路大震災を契機に大きく変貌・発展してきました。大規模な災害や事故が発生した場合にファーストレスポnder各主体が展開する救援活動について、実務上の知見と経験を活かして、経緯、位置付け、課題等を講義します。（市町村の活動については第5回～第10回で詳説、自主防災組織については第14回で解説）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	自然災害や大規模な事故が発生したとき、災害対策基本法や災害救助法などにに基づき、その被災者や被害者の救援活動が実施されます。救援活動には様々なものが含まれますが、消防・救急隊による救護・救急活動から、警察、自衛隊、消防のレスキュー隊による捜索・救助活動、さらには、避難後の被災者に対する避難生活支援、食料や生活物資支援、医療支援というような生活支援など多岐にわたる活動が存在します。これらの救援活動には、自主防災組織などの地域の住民組織、企業、ボランティアなどが密接に関係することも多く含まれます。こうした自治体（災害対策本部）、消防、警察、自衛隊、公共機関、自主防災組織などのファーストレスポnder（初動対応者）による救援活動の実態を、法制度の側面も踏まえながら、具体的、かつ理論的に考察することにより、救援活動に関する理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（講義：オンデマンド型、質疑：ライブ配信型）を取り入れます。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。 ■キーワード 災害対策基本法・災害救助法・ファーストレスポnder		
授業の趣旨	■副題 大規模災害・事故における多様な主体における救援活動の実態と課題（市町村を中心に） ■授業の目的 大規模な災害や事故が発生した場合にファーストレスポnder各主体が展開する救援活動について、基本的な知識と素養を身につけ、大規模な災害や事故の際の救援活動は、バラバラではなくファーストレスポnder各主体の協働意志の下で連携して展開されるものであること、そして、自主防災組織などの住民組織、企業、ボランティアといった民間レベルの活動も密接に関係していることを、災害サイクルに沿いながら説明できるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 大規模な災害に見舞われた社会での救援活動は、各種法制度に基づき平常時と異なる多様な組織間関係の中で展開されます。組織間調整がうまくいかず、活動の重複、欠落、遅れ、資源の偏在化、資源調達の失敗などの問題が発生し、それが組織の失敗とみなされると、当該組織は社会的批判を浴び、時にトップの更迭などの危機を招くことにもつながります。 自然災害や大規模な事故が発生したとき、災害対策基本法や災害救助法などにに基づき、その被災者や被害者の救援活動が実施されます。救援活動には様々なものが含まれますが、消防・救急隊による救護・救急活動から、警察、自衛隊、消防のレスキュー隊による捜索・救助活動、さらには、避難後の被災者に対する避難生活支援、食料		

	や生活物資支援、医療支援というような生活支援など多岐にわたる活動が存在します。これらの救援活動には、自主防災組織などの地域の住民組織、企業、ボランティアなどが密接に関係することも多く含まれます。 こうしたさまざまな救援活動が展開される中で、特に全国に1,724団体(R2.1.31現在)存在する市町村は、住民に最も身近な公的組織として、災害対策基本法で救援活動の第一義的な責務を有する組織と位置付けられています。救援活動に関わる公的組織は数多く存在しますが、市町村の特性は、警察や自衛隊など緊急対応を専門とする組織のそれと大きく異なります。最も異なるのは、市町村にとって災害対応というタスクは、平常時には様々なタスクの内の一つですが、災害時には組織全体で対処すべき絶対性・緊急性を有するタスクに変貌する点です。平常時、市町村は福祉、土木、税、廃棄物処理などさまざまなタスクを部門別に分権的に処理しています。防災部門もその一つとして、防災計画やマニュアルの整備、防災訓練の企画・実施、住民への防災啓発などのタスクを処理しています。ところが、いざ台風が接近したり、大地震が起きたりすると、災害対策本部という組織全体で災害に対処する体制に切り替わり、災害対応が主たるタスクとして位置付けられるようになります。 東日本大震災で不幸にも現実化したように、市町村には、たとえ災害で庁舎などの活動の拠点を失っても、たとえ市町村長が命を失うことがあっても、被災した住民や地域社会を守るために必要なタスクの迅速な遂行が求められます。こうしたタスクの絶対性・緊急性は一般的な私企業に比べて高く、遂行レベルが低ければ大きな社会的批判を浴びることになります。災害の規模が大きくなるほど、市町村の持つ資源だけでタスクを遂行することは困難となり、国の各省庁、都道府県、他の市町村、企業、NPO組織、ボランティア組織、住民組織などと積極的に調整を行い、活動内容、活動手順、優先順位、人的・物的資源の調達、情報の共有化、役割分担などについての合意と受容を得て活動を進めていくことが欠かせなくなります。 この授業では、大規模な災害や事故の際に多様な主体によって展開される救援活動について、市町村を中心に法制度、経緯、内容、課題を解説していきます。									
総合到達目標	■大規模な災害や事故が発生した場合に展開されるファーストレスポnder各主体による救援活動に関し、防災体制上の位置づけ、種類、経緯、活動内容、課題について説明できるようになり、将来のキャリアの中で救援活動を考える際の基本的な知識や態度を修得する。具体的には以下の通り。 ■大規模な災害や事故が発生した場合のさまざまな主体による救援活動を、法制度的な側面から説明できる。（第2回～第4回） ■市町村をはじめとする公的防災機関による救援活動の仕組みと課題を説明できる。（第5回～第11回） ■自主防災組織等の住民組織、企業、ボランティアによる民間レベルの救援活動の実態と課題を説明できる。（第12回・第13回）									
成績評価方法	■レポート3回(100%)：適用ルーブリック E1・I1 （評価の観点）救援活動をテーマとした課題（授業時に具体的内容は指示）について、関連資料を読解してレポートにまとめることにより、必要な学識や情報分析力を問います。 （フィードバックの方法）成績評価後に、全体的な講評をclassroom ストリームに示します。									
履修条件	特にありません。									
履修上の注意点	近年の災害については、インターネット上に自治体が編集した「災害の記録」が多数公開されています。興味のある「災害の記録」を読み、どのような主体がどのような救援活動を展開していったのかを確認してみましょう。いろいろな「気づき」があるはずですので、授業中あるいは授業後に質問してください。									
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ 講義のアウトラインと前提事項 ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、救援活動を理解するための前提条件となる、ハザードと社会の関係、救援活動に関係する3つの要素（自助、共助、公助）、災害の規模と救援活動との関係等について説明できるようになる。（E1、I1）第1回レポートについて指示します（全体的な講評を成績評価後に行います）。 ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp1-p3を確認しておく。 http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 講義の「今日のポイント」を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 救援活動に関係する法制度の概観 ②授業概要 救援活動に関係する法制度について、きっかけとなった災害や事故がどのようなものであったのかを説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp4を確認しておく。 ④復習(120分) 救援活動に関係する法制度の制定や改正のきっかけとなった災害や事故を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。 </td></tr><tr><td>3</td><td> ①授業テーマ 救援活動に関わる様々な組織 ②授業概要 救援活動には多様な組織が関与し、災害や事故の規模が大きくなるほどその様相は巨大化・複雑化することを説明できるようになる（E1、I1） ③予習(120分) 「平成28年(2016年)熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について（非常災害対策本部）」を見て、救援活動に関わった組織を10以上リストアップし、メモしてくる。 http://www.bousai.go.jp/updates/h280414jishin/pdf/h280414jishin_52.pdf 「日本の防災対策」（内閣府）のp6-8を確認しておく。 </td></tr></table>		回	内容	1	①授業テーマ 講義のアウトラインと前提事項 ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、救援活動を理解するための前提条件となる、ハザードと社会の関係、救援活動に関係する3つの要素（自助、共助、公助）、災害の規模と救援活動との関係等について説明できるようになる。（E1、I1）第1回レポートについて指示します（全体的な講評を成績評価後に行います）。 ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp1-p3を確認しておく。 http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 講義の「今日のポイント」を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。	2	①授業テーマ 救援活動に関係する法制度の概観 ②授業概要 救援活動に関係する法制度について、きっかけとなった災害や事故がどのようなものであったのかを説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp4を確認しておく。 ④復習(120分) 救援活動に関係する法制度の制定や改正のきっかけとなった災害や事故を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。	3	①授業テーマ 救援活動に関わる様々な組織 ②授業概要 救援活動には多様な組織が関与し、災害や事故の規模が大きくなるほどその様相は巨大化・複雑化することを説明できるようになる（E1、I1） ③予習(120分) 「平成28年(2016年)熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について（非常災害対策本部）」を見て、救援活動に関わった組織を10以上リストアップし、メモしてくる。 http://www.bousai.go.jp/updates/h280414jishin/pdf/h280414jishin_52.pdf 「日本の防災対策」（内閣府）のp6-8を確認しておく。
回	内容									
1	①授業テーマ 講義のアウトラインと前提事項 ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、救援活動を理解するための前提条件となる、ハザードと社会の関係、救援活動に関係する3つの要素（自助、共助、公助）、災害の規模と救援活動との関係等について説明できるようになる。（E1、I1）第1回レポートについて指示します（全体的な講評を成績評価後に行います）。 ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp1-p3を確認しておく。 http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 講義の「今日のポイント」を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。									
2	①授業テーマ 救援活動に関係する法制度の概観 ②授業概要 救援活動に関係する法制度について、きっかけとなった災害や事故がどのようなものであったのかを説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「日本の防災対策」（内閣府）のp4を確認しておく。 ④復習(120分) 救援活動に関係する法制度の制定や改正のきっかけとなった災害や事故を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。									
3	①授業テーマ 救援活動に関わる様々な組織 ②授業概要 救援活動には多様な組織が関与し、災害や事故の規模が大きくなるほどその様相は巨大化・複雑化することを説明できるようになる（E1、I1） ③予習(120分) 「平成28年(2016年)熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について（非常災害対策本部）」を見て、救援活動に関わった組織を10以上リストアップし、メモしてくる。 http://www.bousai.go.jp/updates/h280414jishin/pdf/h280414jishin_52.pdf 「日本の防災対策」（内閣府）のp6-8を確認しておく。									

	http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 救援活動に関わる様々な組織を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
4	①授業テーマ わが国の救援活動体制の骨格 ②授業概要 災害対策基本法に基づくわが国の防災体制の骨格を説明できるようになる。(E1、I1) ③予習(120分) 「日本の防災対策」(内閣府)のp 6 - 9を確認しておく。 http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf ④復習(120分) 我が国の防災体制の全体像を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
5	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動 1 (組織体制) ②授業概要 大規模な災害や事故が発生した場合にファーストレスポnderの中核となる市町村について、災害に対処するための組織体制(他の主体との連携体制を含む)を説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、特に市町村災害対策本部の現状や課題を解説します。(E1) ③予習(120分) 「平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書」を確認しておく。 http://www.city.joso.lg.jp/soshiki/shicho_koshitu/bousai/shs09/news/suibou/1465342760379.html ④復習(120分) 市町村の災害対策本部の構造や機能を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
6	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動 2 (避難措置) ②授業概要 大規模な災害や事故の際、命を守るために市町村が行う避難措置について、その仕組み(他の主体との連携を含む)を説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、特に風水害・土砂災害時の避難勧告・指示等の現状や課題について解説します。(E1) ③予習(120分) 「平成25年伊豆大島土砂災害第三者調査委員会報告書」を確認しておく。 https://www.town.oshima.tokyo.jp/soshiki/fukko/dai3sha.html ④復習(120分) 市町村が行う避難措置について授業で紹介する教訓事例も含めて確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
7	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動 3 (被災者支援) ②授業概要 大規模な災害時や事故の際に市町村が行う被災者への各種支援(避難所の開設・運営、食料・物資の提供等)について、その仕組みや課題(他の主体との連携を含む)を説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、特に災害救助法や被災者生活再建支援法の成り立ちや運用について解説します。(E1) 第2回レポートについて指示します(全体的な講評を成績評価後に行います)。 ③予習(120分) 「災害救助法の概要」http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/pdf/siryo1-1.pdf 及び 「避難所運営ガイドライン」http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605hinanjo_guideline.pdfを確認しておく。 ④復習(120分) 災害救助法の意義や問題点を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
8	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動 4 (活動を円滑化するための備え) ②授業概要 大規模な災害時や事故の際の救援活動を円滑化するために市町村が他の主体とも連携して行っている備え(防災訓練、マニュアル類の整備等)について学び、その内容や課題を説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、特に防災図上訓練の具体的な手法も解説します。(E1) ③予習(120分) 「実践的な防災訓練の普及に向けた事例調査報告書」(消防庁) http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/zisenteki_bousaikunren_hukyu/houkokusyo_20140325.pdfを学習しておく。 ④復習(120分) 市町村などが行っている防災訓練を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
9	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動 5 (受援体制の整備) ②授業概要 ファーストレスポnderの中核である市町村の観点から、今後の大きな課題となっている応援・受援体制の整備について、その具体的な内容を説明できるようになる。(E1、I1) 担当教員の実務経験を踏まえて、特に市町村の災害受援計画の現状や課題について解説します。(E1)

	③予習(120分) 「地方公共団体のための災害時受援体制に関するガイドライン」 http://www.bousai.go.jp/taisaku/chihogyoumukeizoku/pdf/jyuen_guidelines.pdf を学習しておく。 ④復習(120分) 応援・受援体制の現状や課題を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
10	①授業テーマ ファーストレスポnderとしての市町村の活動6（人材の育成） ②授業概要 ファーストレスポnderの中核である市町村の観点から、今後の大きな課題となっている人材育成について、その具体的な内容を説明できるようになる。（E1、I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、職員研修を実施する際の具体的な手法や留意点も解説します。（E1） ③予習(120分) 「防災に関する人材の育成・活用専門調査会報告」を確認しておく。 http://www.bousai.go.jp/taisaku/jinzai/ikusei/index.htm ④復習(120分) 人材育成の現状や課題を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
11	①授業テーマ 消防、警察、自衛隊、日赤等による公的な救援活動 ②授業概要 ファーストレスポnderの内、救護・救急、捜索・救助、医療救護などの実働主体である消防、警察、自衛隊、日本赤十字社等による公的な救援活動について、それぞれの責務、活動内容、連携体制を説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 「消防白書」「警察白書」を確認しておく。 ④復習(120分) 消防、警察、自衛隊、日本赤十字社の機能や関係機関の連携について確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
12	①授業テーマ これまでの復習 ②授業概要 これまでの学習内容を振り返り、習得した知識を説明できるようになる。（E1、I1）第3回レポートについて指示します（全体的な講評を成績評価後に行います）。 ③予習(120分) これまでの授業内容を講義ノートを基に確認しておく。 ④復習(120分) 講義資料等を再度確認し、本授業のポイントを理解する。
13	①授業テーマ ボランティア等民間レベルによる救援活動 ②授業概要 今日、ファーストレスポnderの重要な主体となっているボランティアや企業など民間レベルの救援活動について、それぞれの活動内容や公的機関との連携体制を説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 授業時に指定する資料を学習しておく。 ④復習(120分) ボランティアや企業の救援活動事例を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
14	①授業テーマ 自主防災組織による救援活動 ②授業概要 地域に密着した自主防災組織による救援活動について、活動内容、公的機関との連携体制、課題を説明できるようになる。（E1、I1） 担当教員の実務経験を踏まえて、特に自主防災組織の経緯や各地の取組事例を解説します。（E1） ③予習(120分) 「自主防災組織の手引き」（消防庁）http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2304-all.pdf を確認しておく。 授業共有ファイルに登録している「自主防災組織の経緯と展望」を読んでおく。 ④復習(120分) 自主防災組織の意義や課題を確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。
15	①授業テーマ 救援活動を巡る今後の展望 ②授業概要 救援活動について、これまでの講義を踏まえ、今後の展望を考える上での論点を説明できるようになる。（E1、I1） ③予習(120分) 講義ノートを確認しておく。 ④復習(120分) 授業で示されたポイントを確認し、さらに知りたいことなどを自習する。疑義がある場合は、リアクションペーパーなどを通じて質問する。

関連科目	自然災害論(RMGT3503) 地域防災論(RMGT3505) 消防救急(RMGT3507)
教科書	特にありません。授業の際、レジュメ及び資料を配付します。
参考書・参考URL	「日本の防災対策」（内閣府） http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf 内閣府防災『防災白書』 消防庁『消防白書』 警察庁『警察白書』 防衛省『防衛白書』 吉井博明・田中淳編『災害危機管理論入門』（弘文堂） 田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』（弘文堂）
連絡先・オフィスアワー	▪連絡先 開講時に告知します。 ▪オフィスアワー 各回授業の後、質問等に応じます。
研究比率	▪危機管理領域との対応 災害マネジメント100% ▪危機管理学と法学とのバランス 危機管理学80%：法学20%

